



ナデシコ（撫子） 三村 千秋

－ 十 人 十 色 －

私は「十人十色」という言葉が好きです。個性に違いがあるように、子育てもまた「十人十色」であって良いのだと思います。

私の姪はオーストラリアのパーズに住んでいます。語学を学ぶために現地を訪れ、その美しさに魅了されて結婚し、移住して20年になります。現在は3人の子どもを育てていますが、その一人には発達障害があります。

かつてその子は、教室で先生の話をもじって聞くことができず、いつも叱られていました。

本人は「先生に注意されて、黙ろうと思ってもやめられないんだよ。勝手に口が動いちゃうんだ・・・。」と漏らしていたそうです。

姪に「叱られてばかりだと、自己肯定感が下がってしまう心配はない？」と尋ねたことがあります。すると彼女はこう答えました。「私たちは、これがこの子の個性だと思っているの。ADHDという特性を持った子なのよ。病院へ行くのは、単に診断名をもらうためではなく、この子への接し方のヒントを見つけるためだと考えたの。先生もその個性を理解してくれるようになると、順番を待てた時などに、これまで以上に褒めてくれるようになったのよ。」

彼女の言葉から、多様性を受け入れる国民性と、学校・家庭における教育のあり方の大切さを強く感じました。

子どもの個性を最大限に活かすためには、本人の好き嫌いや苦手なことを深く知る必要があります。子育てにおいて、子どもの個性に合わせた「遊び」「接し方」

「褒め方」を見直すという考え方に、私はハッとさせられました。

子どもたちは一人一人が個性的であり、親御さんにもまた個性があります。ならば、育て方も親子それぞれの組み合わせに応じて、多様であって当然です。

「障害」とは何でしょうか。それはその子の「学びやすさ」や「生活しにくさ」のことではないでしょうか。そうであれば、その子が学びやすく、過ごしやすい環境を整え、個性を伸ばしていく方法を、私たち大人が共に考えていきたいものです。

今年の『ナデシコ』では、子どもの多様な個性を紹介し、時には事例を交えながら「個性的な子育て」について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

個別面談

皆様にご心配されている子育て相談や就学相談など、クォーレでは対応が難しかった部分を三村先生にお願いし、個別相談をしていただくことになりました。

三村先生は、数々の実績とご経験をお持ちの方で、今もなお、広島大学客員教授などご多忙な毎日を送られている中、クォーレの療育に賛同して下さり、ご協力していただける運びとなりました。

Zoomでのオンライン面談も可能です。

<https://airrsv.net/qole-hogosyamendanyoyaku/calendar>

↑こちらから予約が可能です。

詳細は教室にお尋ねください。



お知らせ

Instagram・Facebookの更新が始まりました！

是非ご覧ください！！

クォーレのことをさらに詳しく、
ブログ随時更新中！

クォーレ ブログ

検索

